▲能登半島地震により倒壊した建物の様子

特集 大地震 今日がその日だったら

今年の元日、石川県能登半島を震源とする最大震度７の地震が起こりました。建物の倒壊や津波などで多くの方が犠牲となり、９か月経った現在も避難所生活を余儀なくされている方がいます。

また、８月８日には宮崎県日向灘を震源とする地震を受けて、初めて南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されました。田辺市に住む私たちも我がごとと捉え、地震への備えを万全にしておく必要があります。

今回、能登半島の被災地へ派遣された市職員に、被災地での支援活動を通じて感じたことを語ってもらいました。地震から身を守るために今、何ができるかを考えていきたいと思います ――。

問防災まちづくり課（本庁舎５階） ☎0739（26）9976

「たった４日間。それでも避難所の難しさを感じました。」

防災まちづくり課
西野 茜（あかね）

発災して約３か月後に、能登町で４日間避難所の支援を行いました。

避難所で知り合った女性は、娘さんとお孫さんが帰省していた時に地震が起こり、家具等の転倒により食器や冷蔵庫の中身が部屋に散乱するなどの被害に遭いました。孫のためにも家具の固定など対策を少しでもしておけばと後悔されており、改めて家具転倒防止対策等の必要性を感じました。

また避難所のような多くの人が生活する環境では、男女別更衣室がないことなどプライバシー面での課題を多く感じました。そこで地域の防災学習会では、災害時の避難所運営で男女１名ずつリーダーを選出し、男女両方の視点も取り入れた避難所運営を行う必要性なども啓発するようにしています。

地域が支えあい、困難を乗り越えていくために、市民の皆さんの防災への理解や協力が必要です。この被災地での経験を皆さんに伝えていきたいです。

▲①住宅が大きく倒壊②地面の隆起による地割れした道路③山腹から崩壊した斜面

能登半島地震から学ぶ

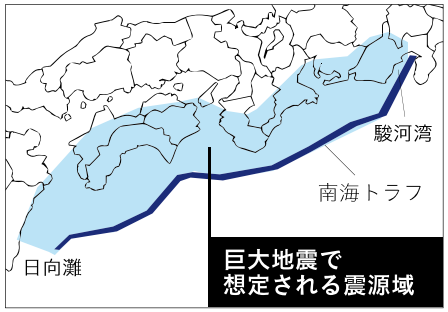
能登半島地震では、地域の耐震化されていない木造住宅に対して、揺れが大きい地震が長く続いたことで、大規模な家屋の倒壊などにつながったとされています。また、沿岸部では津波が、山間部では土砂崩れが起こりました。田辺市でも同様に、地域により異なる被害が発生することが想定されています。

地割れによって道路が寸断されたことで、断水になったり、孤立集落が発生し、物資不足により生活に支障が出たりするなど、長期に渡って地震の被害が続いているケースもあります。まずは地震による被害から身を守り、そして生き延びるために、今からできる備えをすることが重要です。

南海トラフ地震とは

静岡県駿河（するが）湾から宮崎県日向灘（ひゅうがなだ）沖までのプレート境界を震源域とした大規模地震で、このうち、東海沖から四国沖にかけては90～150年周期で繰り返し発生しています。

想定では、マグニチュード８～９クラスの地震が、今後30年以内に70～80％の確率で発生するとされています。また震度６弱以上の強い揺れと、太平洋沿岸部には10ｍ以上の津波が到達する地域もあると予想されており、田辺市でも沿岸部を中心に大きな被害が出る恐れがあります。



「支援が行き届かない。だからこそ自助が大切なんです。」

田辺市消防本部　警防課
亀田 康平（こうへい）　松葉 和彦（かずひこ）

地震による隆起、陥没した道。被災地へ向かう途中でも痛々しい光景が広がり、被害の大きさを感じました。道路状況が良くなかったことから、被災地の能登町へ到着したのは田辺市を出発して３日後のことでした。

被災地では主に被害調査を行いましたが、倒壊している家屋は、木造で屋根が日本瓦のものが多く、田辺市内でも耐震化など地震に耐えられる備えをする必要性を感じました。また、山間部では道が寸断されたことで孤立集落となり、行政からの支援が届かない状態が続いている地域も見られました。私たちもこのような状況を想定し、備蓄品など日頃から自分ができる備えは十分すぎるくらい行った方がいいのではないかと思います。

地震による被害や災害対応の現状を目の当たりにし、一人でも多くの人の命を「つなぐ」ためには、私たち行政ができる公助だけでなく、市民の皆さんの自助の必要性が高いと感じました。

地震への備えをしよう！

日頃からの備えが、地震の被害を防いだり軽減することにつながります。まずは、地震によって自分の身の回りがどんな状態になるか想像してみましょう。自宅での被害を防ぐには何ができるか、ハザードマップを確認し避難が必要かどうか、どんな備えが必要か ····· 自分に合った行動を考えることが大切です。

1 自宅は安全ですか？

自宅を壊れない状態にしておく

建物が壊れると、建物の下敷きになったり、逃げ道がふさがれたりします。安全・迅速な避難の第一歩は、自宅の耐震性を知ることです。

市では、無料での耐震診断や住宅の耐震改修費の補助をしています。

問建築課建築係　☎0739（26）9935

https://www.city.tanabe.lg.jp/kenchiku/kenchiku/kenchiku-taishin-shindan.html

地震の揺れで家具が倒れないようにしておく

近年の地震による負傷者の30～50％は、家具類の転倒・落下・移動が原因です。家具の配置を考え、転倒防止対策を行いましょう。

地震への備えについて詳しくは、防災まちづくり課のホームページをご覧ください。

https://www.city.tanabe.lg.jp/bousai/

2 自宅がある場所は安全ですか？　津波・土砂災害のハザードマップで確認

自宅が危険な場所にある場合は、地震発生後**直ちに**避難しなければいけません

能登半島地震で土砂災害の被害を受けた建物は、80％以上が土砂災害警戒区域内だったそうです。

津波は地震発生から早ければ5分で到達するとされています。避難施設や、津波避難タワー①、津波避難ビル②など、できるだけ避難できる場所を確認しておきましょう。

①

②は
このマークが
目印

3 避難生活が必要になった場合はどうしますか？

立ち退き避難

□親戚、知人宅、小学校などの避難所へ避難することになります。
事前に親戚や知人に相談しておきましょう。

□持病がある場合は？アレルギーがある場合の食べ物は？ペットがいる場合は？
など事前に確認しておきましょう。
在宅で配慮が必要な方は福祉避難所（18ページ参照）も確認しておきましょう。

在宅避難

□水や食料等の準備を十分にしておきましょう。

事前に、災害時に連絡が取り合えるよう、家族で確認しておきましょう

○○さんが自分の無事を伝えたい
伝言録音
171＋1＋○○さんの電話番号

家族や親せきが
○○さんの安否を確かめたい
伝言再生
171＋2＋○○さんの電話番号

災害伝言ダイヤル
171

・電話で安否情報（伝言）の録音・再生
※毎月1日、15日等は体験訓練ができます。家族で利用する場合は代表番号を決めておき、子どもと一緒に練習をしておきましょう。

アプリ
和歌山県防災ナビ

・避難先の検索
・防災情報の通知
・家族等の避難場所を確認
・避難トレーニング
※家族の情報も一緒に登録しておきましょう。

常に意識して備える

いつも持ち歩くポシェットに防災グッズを入れて、笛も身に着けて備えをしています。

防災士
鹿毛（かげ） 智子（ともこ）さん

ー支援はすぐ来るとは限らないー

地震で被災された方が「配給が1日おにぎり1個の時があった」「トイレが汚すぎて、食べ物よりトイレを使えるようにして欲しい」と話されているのを聞き、自分でも常に備えをするようになりました。避難所に着いても、すぐに物資が十分に配給されるとは限らず、道路の寸断などで物資が届かないこともあります。

ーいつ起こっても大丈夫なようにー

災害はいつ起こるか分かりません。私は自宅・自家用車・職場にも備えをし、命をつなぐため、水・食べ物・簡易トイレ・ティッシュはポシェットに入れ、笛も肌身離さず持っています。今地震が起こったらどうするのか、常に意識しながら事前に準備することが大事だと思っています。

私の備え

いざという時、自宅から逃げることを意識する
・自宅の耐震化、家具転倒・ガラス飛散防止対策
・枕元に懐中電灯や靴を入れた袋を準備しておく
・ゆがんで開かなくなる前に扉を開ける 等

家族の安否確認のために
家族で逃げる場所を決め、災害用伝言ダイヤル171で練習もしています。

一人の意識から始まる防災

大震災を経て

東日本大震災以降、ハザードマップの見直しや指定緊急避難場所の整備などを早急に進めてきました。防災教育にも継続して取り組んでいます。

あれから13年経ちましたが、今年の元日には能登半島地震が発生し、8月には南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表され、緊張感を持たれたことかと思います。防災というのは個人の小さな取組から地域ぐるみの大きな取組まで様々です。こうした取組のきっかけとして、また、防災について家族で話し合ってもらう機会となることを目標に、市では平成24年から「家族で考える防災の日」を独自に定めています。

積み重ねが大きな防災に

一人ひとりの小さな取組が重要です。その積み重ねが、家庭や町内会、地域のコミュニティという大きな防災につながっていきます。

津波避難の三原則には「想定にとらわれるな」、「最善をつくせ」、「率先避難者たれ」とあります。自分が率先して行動することは、周りの人をも動かし、多くの人が助かることにつながります。

防災意識を受け継いでいく

南海トラフ地震の発生確率は30年以内で70％～80％とされていますが、災害は先入観にとらわれず「正しく恐れる」という姿勢が大切です。田辺市の豊かな自然の恩恵を受けながら、自然災害には危機感を持って備え、毅然と対応する。災害の記憶を伝える石碑や伝承といった先人が残してくれたことも再認識して大切にする。そういった認識や対応は防災意識を育みます。そして防災の意識が次の世代へと受け継がれていくことで、地域と行政の両輪からいずれ市全体として大きな防災を達成できると考えています。

危機管理局
局長　茨 善行（よしゆき）